

うた ひつじの詩だより

100回記念号

2009, 7, 1
毎月発行 No.100
この裏にはご注文の品と
いっしょにお届けします



くるみの季節がやってきました。初夏から夏にかけてのこの季節、スウェーデンひつじの詩舎の染め場はオニグルミの染色真っ最中です。

普段私たちが食べるのは、種の中身。くるみの殻と思っているのが種です。生のくるみはそのまわりに写真のような緑の果皮がついていて、これが美しい茶色をくれるのです。

染色担当の須田静香さんによると・・・採ってきたくるみは木槌でとんとたたいて、色が出やすくします。すぐに処理しないと痛んでしまうので、大忙しです。色を煮出す間は、生の果実ならではのアクが出るので丁寧にとり除きます。染液に毛糸を浸してからは、空気に触れたところが酸化して色が変わってしまうので、様子を見ながら5～6時間ずっと攪拌し続けます。いよいよ取り出して空気にふれさせると、毛糸の茶色はよりいっそう深みを増します。乾燥保存した染料を使うことも多い中で、生くるみの染色は毎年この時期ならではの、一大イベントです。

嶋村慶子先生から 「シュタイナー教育人形」

会報100号おめでとうございます。

佐々木先生のウォルドルフ人形は日本中に広がり、子どもたちに大きな貢献をされてきました。

私も人形作りが好きで、幼稚園のお母さんたちとたくさん作りました。

私は幼稚園で作るお人形を、「シュタイナー教育人形」と自分で勝手に呼んでいます。子どもの心と体の成長発達のことや、子どもとの日々の暮らし、お人形の意味などをお話しながら作り、またお人形とその作り方を子どもの成長過程と対応するようにしているからです。理屈っぽいお人形作りと思われるかもしれませんが、お人形を作りながら子育ても楽しく学べるという秘密の力が「子どものためにお人形を作る」ということにあるようです。お人形を作っていると心が優しくなったり、困難な事があっても乗り越えていかれそうな勇気が得られるのは不思議です。作ることを大事にして、自分の手でやるというのは技術と共に精神も育ててくれますね。

嶋村慶子

〈元キンダーガルテン星の子教師、現在子育てサポート星の庭を準備中、シュタイナー幼児教育協会運営委員〉

「スウェーデンの絵本原書とウォルドルフ人形展」

8月6日(木)～8月27日(木) 10:00～17:00

土日祝日・24日休館 及び 昼休み(12:30～13:30は遊覧します)、入場無料

スウェーデン大使館にて 港区六本木(最寄駅:東京メトロ神谷町 または 六本木1丁目)

日本にはまだ紹介されていないスウェーデンの絵本と、ウォルドルフ人形や羊毛の手仕事の展示とワークショップをおこないます。また、実際にウォルドルフ人形に触れて遊べるコーナーも設える予定です。スウェーデンの穏やかで楽しい子どもの世界を、どうぞお楽しみください。

作品展のおしらせ「心を育む人形たち」

8月1日(土)～9日(日) ちいさなえほんや ひだまり

札幌市手稲区新発寒3条4-3-20 TEL:011-695-2120 担当:長内洋子

カーリン・ノイシュッツさんから 「ウォルドルフ人形」

私が深く興味を持っていることの一つに、子供たちの玩具をデザインする事と、人形とその洋服、いろいろな動物、そしてその他の手工芸品を作るための型紙を製作する事があります。

子供たちは親やまわりの大人が、小さい子のために手製のおもちゃなどを作るのに参加することが大好きなようです。子供たちは人形が作られる過程を見ていると、安心で幸せな気持ちになり、その自分のためだけに作られた人形を買ったときには、誇らしさと喜びでいっぱいになります。この経験が自分自身への信頼感を強めます。

ウォルドルフ学校では生徒は通常6年生で、この人形を作ります。ちょうど人間の体とその各部の構成比を生物の授業で習うときです。もちろん他のすべての手工芸をする時も同様ですが、人形を縫う時には論理的思考と根気と器用さの訓練になります。そして色や形といった芸術的センスも育ちます。

1973年に私は綿生地を使い中に羊毛を詰めた人形の作り方をギーゼラ・リジェットさんというストックホルムにあるウォルドルフ学校、クリストファー・スコーランの裁縫の先生から習いました。私はこの人形に魅了されました。そして最初は私の3人の子どものために、その後は販売し、また講習会で見せるために新しい形と型紙を開発することにやり甲斐を見出しました。

1975年にはいくつかの人形の作り方をイラスト付で書いて出版しました。この小さな本はその後、人形作りに必要な材料を全て揃えたセットと共にストックホルムのおもちゃ屋さんで販売されました。そしてその後はスウェーデン中の、おもに手工芸用品店で販売されるようになりました。この本は何度も改訂を重ね、今も“Mjuka dockor, stora och sma” (Soft dolls, large and small) として販売されています。

ウォルドルフ人形がスウェーデンでとても支持されるようになった理由は、おそらくこの人形が綿や羊毛といった自然素材で作られているからでしょう。程よい硬さと重さがあり、子供たちに暖かくて優しい気持ちを与えてくれます。目と口が小さな点になっている顔の表情は、子供の心が望むままに、泣いて見えたり笑って見えたりします。

1980年代に、当時スウェーデンに住んでいた佐々木奈々子さんと私は素晴らしい仕事をしました。私達は共同で“Waldorfdolls”という本をつくり、まず1986年に日本で出版し、後に1992年にスウェーデンでも出版し、重版を続けています。(邦題「ウォルドルフ人形の本」文化出版局刊)

佐々木さんは日本に帰国してから人形作りの講座を数多く開催し、“ばたぼん”という人形の伝え手のグループを育てました。そして人形の展示会も何度も行っています。

1998年に私は奈々子さんの招きで日本を訪れました。この楽しい滞在中に、彼女が本当に素晴らしいお店を作り上げたこと、そして“ばたぼん”の人たちが可愛く丁寧に手作りした人形達の展示会も、目の当たりにすることが出来ました。

今では日本中でウォルドルフ人形を見ることが出来ます。奈々子さん、ありがとう!

愛を込めて、カーリン・ノイシュッツ

★あたらしい取扱店です。どうぞよろしくお祈いします。

アトリエ Capri 愛知県豊橋市関屋町148 シャトーウィスタリア202

TEL:0532-34-5857 FAX:0532-34-5655

編集担当:佐藤治子

スウェーデンひつじの詩舎のホームページ

<http://www.s-hitsuji.co.jp/>

